

1	審議会名	上田市通信制単位制高等学校評議委員会
2	日 時	平成23年12月13日 午後3時00分から午後5時45分まで
3	会 場	さくら国際高等学校 コミュニティースペース
4	出 席 者	野原会長、大口副会長、片桐委員、坂口委員、浪方委員、柳澤委員、山内委員
5	学校出席者	荒井学園長、森校長、高橋副校長
6	市側出席者	小山教育長、小市教育次長、小野塚教育総務課長、清水総務企画係長、横沢主査
7	会議概要作成年月日	平成23年12月19日

協 議 事 項 等

- 1 開会（教育次長）
- 2 人事通知書の交付
- 3 委員の紹介（自己紹介）
- 4 あいさつ（教育長）
- 5 会長及び副会長の選出
会長に野原委員、副会長に大口委員を選出。
- 6 議事（質疑応答及び意見）
 - 議事に先立ち、学校の校舎及び授業を見学。
 - (1) 上田市通信制単位制高等学校評議委員会について
 - 会 長 今回あらためて委員の委嘱があったことから、本委員会の趣旨等について事務局から説明をお願いしたい。
 - 事務局 上田市通信制単位制高等学校評議委員会について説明
 - 会 長 ただいまの説明について、質問があればお願いしたい。
特に質問がなければ、学校の概要について説明をお願いしたい。
 - (2) 学校の概要について
 - 学 校 学校概要について説明
 - 会 長 ただいまの説明について、質問があればお願いしたい。
 - 副会長 本学校の教育活動の意義として、中途退学者等への学習機会の提供を掲げているという説明があったが、生徒の入学後の経過として、卒業・在籍・その他が挙げられている。その他の内訳である休学・辞退・転学・退学・除籍の内容についてお聞きしたい。
 - 学 校 休学は、不登校の経験が長かったため現在も登校できないでいる生徒や心身の不調で休学している生徒になる。辞退が合格したが登校の意欲がわからないため、入学を辞退した生徒、転学が本学校に入学したが別の学校へ入学することを希望した生徒、退学が他にやりたいことができた生徒、除籍が本学校の生徒の状況にそぐわないことから、指導を行ったが保護者同意のもと退学に至った生徒などである。
 - 委 員 学習相談センターに所属する生徒に対する面接指導はどのように行っているのか。
 - 学 校 面接指導は必ず本学校もしくは市内にて行っている。市内で行う場合には、本校教員が赴いて指導を行っている。
 - 委 員 県外の生徒が集中スクーリングに参加する場合、市内に宿泊しているのか。
 - 学 校 別所温泉、菅平、わしば山荘などに宿泊し参加している。相当数の生徒が訪問してきているので、上田市への経済効果もあると考えている。
 - 委 員 集中スクーリングによって、規定の面接指導時間を充足しているのか。
 - 学 校 メディア等を活用した場合には面接指導時間を最大 80%まで免除することが学習指導要領で定められているので免除を行うこともあるが、本学校では集中スクーリングの受講を勧めている。
 - 委 員 在籍生徒数は多いと感じるが、生徒全体における卒業や進学の様子はどうか。

学 校 本年度は全体で約 320 名が卒業する見込みである。通学生の卒業見込み 37 名中 2 名が就職を希望していて、その他の生徒は大学等への進学を希望している。すでに大学等の合格が決まった生徒もでてきているが、全員の状況が確定するのはこれからである。全体としては進学する生徒が多い。不登校の経験がある場合には、全体的な学習時間が確保できていない生徒もいるので、進学して気持ちの余裕があるところで学習を行い、自立していくのがよいと考えている。生徒や保護者には、このような学校の考え方を伝えて進路指導している。

委 員 保護者アンケートを一読したり、本日授業を見学して感じたことは、私語がなく、生徒は先生の問いかけに即答している。また、3 年生が卒業に当たって後輩達に残すものを話し合っていた教室の様子を見学したが、他の学校で苦い経験をしたであろう生徒が着実に先に向かって進んでいる姿に感心した。

学 校 先程の授業見学の際に発言していた吃音のある生徒は、大学合格が決まっている。本人もそのことを気にして、吃音が原因で十分な学習ができなかったと考えている。しかしながら、今ではそれを自己 P R の一つにして、推薦の面接の際にもあえて伝えた。先日、整備士の学校に合格した非常に体格がよい生徒も、面接の際に志望動機を聞かれ、学校説明会の時に用意してもらった作業着が自分の体形にあったことを伝えた聞いた。自分で考え実現したという達成感を味わう過程で、この 3 年間を通じて生徒たちはたくましく成長していく。

委 員 通信制の株式会社立学校は、全国又は県内にどのくらいあるのか。

学 校 県内に 2 校、全国に 20 校程度ある。

委 員 3 学年までの生徒数が示されているが、3 年を超えて在学している生徒はいるのか。

学 校 補習を行うなどして、基本的には 3 年で卒業している。卒業率は 98% 程度である。

委 員 学習相談センターに所属する生徒に対する特別活動の 30 単位時間はどのように確保しているのか。

学 校 集中スクーリングの際に時間を確保している。

委 員 特区であることによって、教育課程編成上の特例はあるのか。

学 校 学習指導要領に沿って編成している。

委 員 地域交流に当たって、地域と協議する場を設けているのか。

学 校 交流行事毎に担当者を校務分掌で決めており、地域と事前の打合せを行っている。地域の方々には、学校の意向に沿うよう配慮いただいている。

副会長 生徒の皆さんとの交流は地域にとって非常にありがたいが、それによって授業時間が確保できないなど心配な面もある。

学 校 入学当初は地域交流に参加できない生徒もいるが、半年も経過すると参加することが当たり前のことになる。学習時間は交流時間とは別に確保しているので、授業に支障をきたすことはないと考えている。

委 員 通学型の週 3 日は週 5 日と比較して、同じ単位を取得するのに苦労があると思うが、特別な支援をしているのか。

学 校 週 3 日は月・水・金に通学してくるが、授業が進捗するのが月・水・金である。週 5 日の場合の火・木は復習や予習の時間としている。

委 員 他の学校で苦い経験をした生徒が、本学校に入学することによって、精神的に安定し一生懸命に学習できるということは、これまでの学校のあり方を考えなければならない。本学校が成り立たないというのが本来の姿ではないか。

学園長 学校ごとに特色があるのでそれを否定することはできない。今の子どもたちの多くは、人と交流する練習ができていない傾向がある。十分な経験を積んだ子どもであれば、トランプ遊びなどにおいて、相手の考えている次の手を読んだりして、相手との呼吸とかタイミングを図って勝つための算段をするが、現在の子どもたちはテレビゲームの普及や一人っ子家庭の増加等などもあり、人との関わりが少なくなっている。地域の皆さんの協力もあって、本学校は地域交流の中でいじめられることなく、様々な人と交流することの中で自分の居場所をみつけ、自分の個性を発見して自立につながっていく。卒業した後の心配もあるが、本学校はいつまでも応援していきたいと考えている。

委員の指摘のとおり、本学校のような学校は本来必要ないと考えているが、現実には本学校の教育ニーズを必要とする生徒は数多く存在しており、一人でも多くの生徒が社会参加できるよう支援していきたいと考えている。

会長 他に質問がなければ、今回の主題であります学校評価（案）に移るので、事務局から説明をお願いしたい。

(3) 学校評価（案）について

事務局 学校評価（案）について説明

会長 事務局から説明があったが、この学校評価の評価項目の設定のあり方や評価の内容などについて、委員の皆さんから意見をお願いしたい。

委員 生徒の状況を的確に把握して指導しているという説明があったが、評価書の学習指導の状況において、面接指導の免除について言及しているが、現状で免除はあるのか。

教育長 学習指導要領に基づいて免除できる。

委員 NHK高校講座などのメディアを利用した学習によって、面接指導が免除されている生徒の割合は多いのか。

学校 本校生徒においては少数である。学習相談センターに所属する生徒においては、遠方の場合などは面接指導を全て行うことは困難であるので、メディア利用による免除を受けている。これは通信制における学びの柔軟性でもあるので活用してもよいと考えるが、評価書に指摘されているとおり、積極的に活用することを勧めているわけではない。

教育長 教育特区の認定申請の際に、集中スクーリングを受ける生徒がこの地域に来て交流することによって、地域の活性化が図れるという効果も掲げているので、より多くの生徒に集中スクーリングに参加してほしいと考えている。但し、通信制課程には柔軟に対応する考えが根底にあり、生徒への負担の問題や免除の規定もあるので、強制することはできないが希望として集中スクーリングを受けてほしいということである。

副会長 進路指導の状況において、平成 22 年度卒業生の 6 割弱が進学又は就学しているが、4 割強の生徒の状況はどうか。

学校 進学を目指して浪人している生徒、仕事を持ちながら高等学校の卒業資格を取得した生徒、自立が難しい生徒など状況は様々である。

副会長 設置者の状況において、生徒数が年々増加傾向にあることは認めるが、学校として今後の見込みはどうか。

学園長 生徒数は第二次ベビーブーム世代のピーク時の 3 分の 2 程度になっている。しかしながら、不登校傾向の生徒数は減少しておらず、発達障害のある生徒は増加傾向にある。このような状況から、本学校に対するニーズは高く、生徒数は増えていくものと考えており、引き続き教育サービスの向上を図っていきたいと考える。

委員 全体に占める割合は少ないと思うが、アンケート結果にある「授業時間がもう少し欲しい。」や「授業料がもう少し安くなればいい。」という意見なども踏まえて、生徒が集まらなければ経営は難しくなるなどの課題もあるが、本学校が弱い立場にある生徒を受け入れ、地域交流を通して自立を支援されるよう期待する。

委員 授業見学で、立派に発言する生徒の姿をみさせてもらったが、本学校の教育や先生方の努力の賜物だと思う。また、大学の合格実績をみても、素晴らしい学校に合格している。他の学校との比較も踏まえ、特段の問題を抱えていない生徒が本学校に入学するケースが増えていった場合には、本学校の存在意義をどのように考えているのか。

教育長 高等学校への入学は適格者入学であり、必ず入学試験を行う。学校によって学力の状況が異なるため、一概にはいえないが、長野県における 4 年生大学への進学率は 40% 弱であり、平成 2~3 年頃と比較するとはるかに上がってきているが、全国平均よりやや低い状況である。短大への進学率は、一時期全国でも 1・2 位であった。現在は 12% 程度であり、あわせると大学への進学率は約 50% になる。就職率は、リーマンショック以来、非常に厳しく、12% 程度である。それ以外の 30% 強の生徒が専修学校への進学や進学予備軍になっている。この数年間、私立学

校を含め県内の高等学校は努力してきている。本学校に対するニーズに関連して、高校の中途退学者は大幅に減少してきており、不登校率も逓減傾向にある。しかしながら、不登校率については、病気や経済事情によって30日以上休んでいる場合にはカウントされないなどの問題もあり、不登校率の逓減が必ずしも長期欠席者の低下を意味しているわけではない。家庭の状況がそれぞれ違う中で、きめ細かく生徒に対応してくれる本学校に対するニーズは、生徒が減少していても減ることはないと考えている。本学校にはきめ細やかな対応や個別指導による良さがあり、あわせて地域交流によって自立を育てていく取組を行っている。学習ができる、できない以前に、まずは人を信頼することができなければ、学習まで到達しないので、地域交流によって自尊感情を高め、学習意欲が生まれてくる意義は大きいと思う。

委員 株式会社として利益を追求することと教育を行うことの整合をどのように図っているのか。
学園長 利益を追求するために学校を設立したわけではなく、特区における学校が株式会社による設置が前提となっていたからである。学校を設置する前に文部科学省に相談した際には、学校法人で学校を設置してくださいと助言されたが、東京に設置した場合には50～70億の費用がかかるため、株式会社で設置する形態を選択せざるをえなかった。たしかに、株式会社立の学校は利益追求のための学校であるとの誤解を受けやすく、税制の優遇措置や私学助成もないなどの障害がある。生徒たちのことも考えると、最終的には学校法人による運営形態にしたいと考えている。

委員 子どもが本学校に入学したきっかけは、学校の先生から紹介されて、親子で気軽に見学に行ったことであったが、一目で学校の雰囲気と先生方の対応を気に入り、入学を即決した。入学して3年間通学し、無事卒業できたことに感謝している。本人はコミュニケーションが苦手であったが、地域交流を通して自信が付き成長した。本学校の存在に感謝する一方で、不登校経験のある生徒が多いと感じている。発達障害で悩んでいる生徒も多いと思うが、早期発見することができたらもっと社会に適用できると思う。親の責任も当然あるが、本学校のような先生がもっと増えてほしいと思う。

委員 この会議前に、子どもさんが本学校に入学されてよかったことを委員とお話した。現在の社会経済情勢の中で、家庭も学校も苦労してきているが、不登校はなかなかなくなる。日本人の集団行動、会話能力、忍耐力の低下が30年以上前から指摘されているが、学校は学習する場でもあるが、社会勉強の場でもある。上田市の各小中学校は、本学校が実施している社会体験や自然体験なども取り入れながら努力してきている。本学校の授業を見学させてもらったが、不登校経験のある生徒を育てていくことができる体制になっていると感じた。

副会長 参加させてもらっている塩田中学校の学校支援地域本部では、先生方にもっと頑張ってもらいたいという意見も聞かれるが、一週間に一度訪問している経験からすると、先生方も努力されている。先生方も努力されているので、保護者をはじめ地域が一体となって交流していく必要がある。塩田中学校も少しずつ地域との交流ができるようになってきたので、本学校で実施している地域交流に発展させていきたいと考えており、地域の皆さんにも積極的な活動をお願いしている。

教育長 副会長の意見に御礼を申し上げます。大事なことは学校と家庭が協力して取り組んでいくことである。

会長 既存の学校に順応できている生徒は、親や先生にほめられたい、クラスの人気者になりたい、希望する学校や就職先に行きたいなどの学習の動機をみつけることができている場合が多い。一方で、そのような動機のあり方に疑問を持った生徒が、既存の学校に対応できなくなっていると思う。そして、この中には知的水準が高い生徒や性格の素直な生徒がいる。このような生徒に対して、本学校では学習への動機付けをどのように工夫しているのか。

学校 本学校の場合、楽しくなければ学校ではないことを掲げており、それに対して次の3つのことを実践するようにしている。一つは、人間関係に悩んでいる生徒は学習に集中することができないので、まずはお互いの人間関係がまろやかになるよう取り組んでいる。次に、学習において、わからないことがわかるようになっていたり、人間関係に悩みがなくて学習に目を向けることができかった生徒が学ぶ喜びを知っていくなど、新しい発見をすることである。そして、も

う一つは、地域の皆さんとのつながりから、生徒たちがいろいろと工夫して考え、話し合って何かをつくりあげていく達成感を得ることである。これらの取組があって、生徒たちは3年生になると、1年生の時に悩んでいた自分は一体なんだったのかということ話を話す生徒が多い。我々教職員は、これらのことをいかに生徒に気付かせるかということ話を話し合いながら指導している。

会長 学習の動機をいかにみつけるかという問題提起そのものがおかしく、学習自体の中に動機は埋め込まれているのであって、そういう教育をしなければならない。ご指摘のとおり、今までできなかったことができるようになる喜びが学習であり、それを体感することで自信にもなる。その際に、身体を動かす身体活動と知的活動は別々の活動ではなく、知育と体育は一体である。この身体活動と知的活動の組み合わせをどのように工夫しているのか。

学校 例えば、作業について、ただやらせるのではなく、作業してものをつくりあげるまでにはどういうことをすればいいのかという仕組から含めて考えさせる。新校舎建設の際に、専門家の指導を受けながら、生徒は計画づくりから参加して、芝を植えたりして、きれいに整備できたが、生徒たちは達成感を味わったと思う。生徒が自分たちで考えながら、友人とも話し合いながら進めていくように指導している。

学園長 地域の方には大変お世話になっている。地域の方は非常に上手に生徒をリードしてくれるので、生徒たちもこんなことをしたら地域の方が喜んでくれるかもしれないと、皆さんの笑顔が見たくて一生懸命になる。授業見学の際に、後輩たちがどんなことをしたら喜んでくれるだろうかと3年生が黒板に書いて話し合っていたが、まさにこのことが行動する動機になっていると思う。ラオスにおける学校づくりを進めてきていて、現在8校目になるが、ラオスの子どもたちのために学校をつくるのではなく、生徒たちが学びに行かせてもらっている。学校がない場所に学校ができるので、ラオスの子どもたちはとても喜ぶ。その喜びを感じて帰ってきた生徒は著しく成長する。人の役に立ったという気持ちが生徒の想いや誇りになっていて、今後どういう学習をしていかなければならないのか、どんなことをしなければならぬのかということ考えるようになる。

会長 各委員から多くの意見が出されたが、これをどのように評価書に反映するのか。

事務局 評価書の修正を求める意見はなかったので、基本的には案どおりに決定し、市のホームページ等で公開したいと考えている。

学園長 評価書の進路指導の状況において、6割弱の生徒が進学又は就職しているという表現があるが、4割強の生徒が進学も就職もしていないという誤解を生じさせるので、再度状況を確認したうえで修正したいと考える。

事務局 学校と相談しながら、必要があれば修正したいと考える。

会長 各委員からの提言については、これからの学校運営に取り入れてもらうこととし、評価書については修正箇所を1カ所とし、平成23年度の評価書としたいと考える。

他に意見がなければ、時間の関係もあるので、次の議題である学則の変更について事務局から説明をお願いしたい。

(4) 学則の変更について

事務局 学則の変更について説明

会長 学則の変更について意見をお願いしたい。

特に意見がなければ、本委員会として学則の変更について了承することとしたい。

以上で予定していた議事がすべて終了したので、事務局からその他として何かあればお願いしたい。

7 その他（総務企画係長）

今後の予定等について説明。

8 閉会（教育次長）